

きずな

～家庭で伸ばせる非認知能力～

非認知能力とは

コミュニケーション能力や自尊心、社会性など数値で示すことが困難とされる力のこと

豊かな対話とコミュニケーション

脳の成長をうながし、表現する力と自信を養います

「ねえねえ、あのね、今日ね・・・」

「今、忙しいからあとでね！」

忙しいときについ、一言で返してしまうような会話をされたことはありませんか？

親子の対話が、 「コミュニケーション能力」を伸ばします

「どうして空は青いの？」

「犬はどうしてワンワンって言うの？」

今回は、「コミュニケーション能力」を育むために家庭でできる親子の対話について紹介します。

たくさんの質問をする時期は、お子さんの考える力を引き出す絶好のチャンスです。この時、お子さんの問いにすぐに答えを出したり、無視したりするのではなく、「どうしてだと思う？」と大人が問い返すことで、お子さんに考える習慣がつけます。

人前で話す自信をつける親子の対話



その1

「何を言っても大丈夫」と、お子さんに感じさせることが自信につながります。



★お子さんの話をじっくり聞く★

自分の意見や考えを人前で話せるようになるためには、まず「表現できる」という自信をもつことが土台となります。

そのためには、保護者がお子さんの話をさえぎったり、無視したり、保護者の意見を押しつけないことが大切です。

ゆったりとした気持ちで耳を傾けましょう。



その2

★お子さんが変わる対話★

お子さんに無理やり何かをさせようとしたり、操ろうとしたりする感情的な対話はお子さんを傷つけてしまいます。

まずは、「学校でどんなことがあったの?」「今日はどんな1日だった?」と問いかけてみましょう。これだけでお子さんは、保護者に愛されていると実感することができます。



何気ない質問が、お子さんに「自分は愛されている、必要とされている」という確信を持たせ、自信と自己肯定感につながっていきます。



人と適切なコミュニケーションをとるためには、表現するためのスキルも大切ですが、その土台となる自己肯定感や自信を育むことが大切となります。そして、家庭での親子の対話がこの力を育みます。

お忙しい毎日だと思いますが、お子さんとたくさんの対話を楽しんでみられるのはいかがでしょうか。